

しげのぶ 特別支援学校 だより

発行所
東温市田窪2135
愛媛県立
しげのぶ特別支援学校
印刷所
株式会社 松栄印刷所



大人のひとこと

校長 宮崎 修次

令和七年度の新学期が始まりました。今年度からみなら特別支援学校で実施していた訪問教育が本校に移管されました。創立六十周年を経て、更に多様な学びの充実を目指して訪問教育の皆さんと一緒に新たな一歩を踏み出せることを大変うれしく思っています。

さて、私は特別支援学校で勤務する前は東予地区の高校で英語を教えていました。何度か高三生の担任をしました。二学期のホームルーム活動の間には必ず十年後の自分に宛てた手紙を書いてもらっていました。当時の心境や周囲の状況を文字で記録すること、また将来の自分への応援メッセージを残すことを目的としていました。手紙はその場で封をして親展扱いとし、指定された住所に宛て十年後の夏に私が郵送していました。送った後は、三十歳近くになった教え子から返信が来ることもあったのですが、あるときこのような内容の手紙が届きました。「僕は先生に大学受験合格の秘訣を聞いたとき、『真面目に掃除をすることだよ。』と言われました。だから、勉強は苦手でも掃除だけは誰にも負け

ないように一生懸命頑張りました。でも、言われたとおり掃除をしていたら、成績が伸びてきたんです。希望の大学にも入学できました。大学に入ってから掃除は毎日きちんと続けました。今年から親の会社を引き継いで経営者になりました。これからも掃除を続けていきます。」確かに私は生徒に対して日頃から掃除をすることの大切さを伝えていましたが、その生徒の心にそこまで響き、しかもいまだにその教えを忠実に守ってもらっていることに感動しました。

大人は子どもに対して毎日いろいろな言葉を掛けています。それは励ましであったり、アドバイスの言葉であったり、子どものことを思えばつい口に出る言葉があると思います。でも、受け手である子どもは話し手の思いをはるかに超えた吸収力で自分の成長に生かしています。まさに言葉は魔法のようなもので、相手をつっかかり変えてしまうだけの力をもっているのです。日々の生活の中で、芽生えを促す配慮に満ちた言葉を使って今年度の教育活動を進めることができるようにしたいと思います。

部通信

新年度を迎えて

小学部主事 田中 桜子

令和七年度、小学部は六名の一年生と、一名の転入生を迎え、児童五十一名でスタートしました。昨年度から少しずつ対面での活動の機会が増え、集団で集まって行う活動の楽しさを実感しました。今年度も感染対策に留意しながら、集会などの行事や校外活動など、多くの友達と対面で楽しむ機会を大切にしていきたいと思っています。

今年度からは、訪問教育との交流も年に三回予定しており、各学年やグループでどのような活動をするか、計画しているところです。修学旅行も一緒にいきます。新しい友達との出会いや経験を大切に、様々な活動を通して多くの経験を積んでほしいと思います。

児童一人一人の持つ力や可能性が十分に発揮できるよう、そして充実した学校生活となるよう、教職員と保護者、地域、関係機関の皆様と連携を取り合いながら、児童の成長をサポートしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新年度を迎えて

中学部主事 山上 千津

令和七年度中学部は、六名の新入生を迎え、二年生六名、三年生十四名、合計二十六名でスタートしました。

新しい友達、新しい教室、新しい先生……生徒たちは新しい環境にも少しずつ慣れ、それぞれのペースで中学部

での学習に取り組んでいます。各教室を回っていくと、どの教室にも毎日、笑顔があふれ、楽しそうな声が響いています。

今年度は第二教棟の長寿命化工事が始まるため、教室がばらばらに配置されています。基本的な感染対策をしっかりと行いながら、対面のできる活動を工夫して、学級、学年、グループ、学部全体、と学習集団を大きくしての活動にも取り組み、より豊かな学習活動になるよう工夫して考えています。

中学部の生徒たちが、安心・安全に学校生活を送れるよう、そして「知りたい・伝えたい・やってみよう」と、生徒たちの心が動く学習ができるよう、日々の教育活動に全力で取り組んでまいります。そして生徒たちの気持ちに寄り添い、成長を促していけるよう、保護者の皆様との連携をしっかりととりながら支援・指導を行ってまいります。今年度も皆様の御協力をお願い申し上げます。

新年度を迎えて

高等部主事 宇都宮 稔子

高等部は、五名の新入生を迎え、二年生十九名、三年生十三名の合計三十七名でスタートしました。新しい環境にも慣れてきており、生徒同士や生徒と教師のやり取りを見て、ほっこりすることが多くあります。

今年度、「紙ンバックプロジェクト」に取り組みすることになりました。プロジェクトを通して、古紙から新たなアップサイクル製品を制作し、自ら古紙回収活動を実践することで、環境意識の向上とSDGsを学びます。出前授業を受けるのは、高等部のII・III類型の生徒となりますが、校内に古紙回収ボックスを置かせていただき、全校の児童生徒で取り組んでいきたいと考えています。自分たちの取組が環境に優しい社会を作っていくという体験を通して、皆さんの「気づき」を得たい

と思っています。御協力よろしくお願ひします。

高等部では、卒業後の生活を見据えて、授業や実習等に取り組んでいきます。人との関わりの中で、自分の持ち味が出せる・生かされることを願ひ、毎日の生活の中で地道に取り組んでいきます。よろしくお願ひします。

訪問教育(肢体不自由部門)開始

訪問教育主事 梶谷 由佳

令和七年度訪問教育(肢体不自由部門)開始(県立みなら特別支援学校から移管)に伴い、小学部六名、中学部五名、高等部一名の計十二名が新たにしげのぶ特別支援学校に仲間入りしました。訪問教育は、御家庭や病院に教員が向き、週三回(各二時間)の授業を行っています。

今年度、訪問教育の子どもたちは、新しい先生たちとスタートしました。始めはドキドキしていた子どもたちでしたが、二か月がたち、先生にも慣れてきて、元気に楽しくそれぞれのペースで授業に取り組んでいます。

五月には、本校で運動会がありました。五名の子どもたちが体育館に集まり元気に競技をしました。病院や家庭で練習を積み、本番一発勝負での運動会です。いつも通りに競技をこなす子ども。いつもとちがう雰囲気や表情が固まりドキドキが隠せない子ども。その頑張りを、保護者の方々や本校の児童生徒、先生方に応援してもらい、自分の力を出して頑張りました。また、学校に来られなかった子どもたちも各家庭や愛媛医療センターで実施しました。

今年度は、しげのぶ特別支援学校に来て一年目。交流学習参加や文化祭、ユニバーサル公演など新しい友達との出会いの場もたくさんあります。子どもたちの「うれしいこと」「楽しいこと」「頑張ること」を見付けながら、取り組んでまいります。一年間よろしくお願ひいたします。